

3-1 学校教育の充実

5年後に目指す姿

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで新しい時代を主体的に切りひらく児童生徒を育成する教育環境の整備を進めます。

現状と課題

現 状

① 学習支援員の配置

社会を生き抜く力を持つ児童生徒の育成や、情報化の進展に対応した教育の推進のため、ICT機器を活用した学習活動を支援するICT支援員や、支援が必要な児童生徒の日常生活や学習を補助するスクールサポーターを配置しています。

② 学校・家庭・地域の連携・協働

教育相談室において、不登校児童生徒への適応指導や家庭への教育相談等を継続して行っており、児童生徒の気持ちの安定・意欲につなげています。

学校や地域と連携する体制を整えています。給食費の無償化など、保護者の経済的負担を軽減しています。

野辺地高校の生徒数減少をくい止め、地域社会で活躍できる人材の育成につなげるため、高校の魅力化の支援を行っています。

学校の働き方改革を進めるため、休日の部活動地域展開を進めています。

③ 小学校の老朽化と教職員の多忙化

小学校の老朽化と、児童生徒の減少が見込まれる中において適切な教育環境の充実を図るため、小学校の規模適正化が求められています。

教職員の業務は、教材研究、事務処理、保護者対応等多岐にわたっています。

課 題

① 人材の確保

ICT支援員は、現在大学生を採用していますが、予定する人員に達していません。

支援を必要とする児童生徒は増加していますが、町の財源の関係で、学校が希望するスクールサポーターの人数を配置できていません。

② 連携・協働体制の強化

不登校の原因は子どもによって様々であるため、不登校の解消には至っていません。

町内高等学校存続に向けた取組が必須となっています。

給食費の無償化は、青森県学校給食費無償化等子育て支援市町村交付金を活用しているため、県の動向を注視する必要があります。

部活動の受け皿となる地域団体や、指導者の確保、会費の保護者負担などの課題があります。

③ 教育環境の改善

財源が限られている中で、新校舎の建設が必要です。

教職員の多忙化解消のための取組が求められています。

取組

1 子どもまんなかの学び

子どもの主体性を尊重し、デジタル化を活用した個別最適な学習と協働的な学びを推進します。地域課題を題材とした探究活動やキャリア教育を展開し、進学や将来を見据えた学びを支援します。学力向上と自己肯定感の育成を重視します。

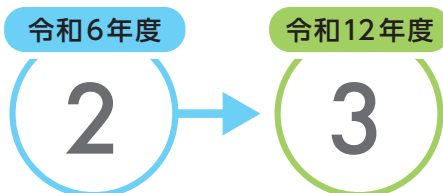
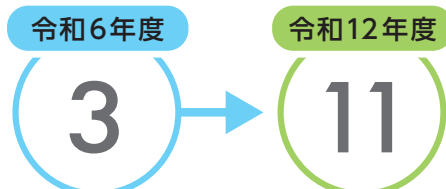
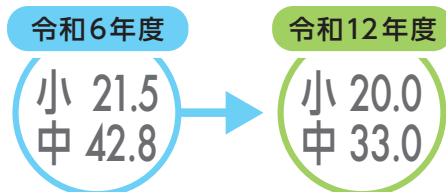
2 みんなで支える子どもの育ち

学校・家庭・地域が連携し、子どもを多方面から支える体制を整えます。郷土愛を醸成するため、地域の歴史や文化に触れる学習を拡充し、地域の大人と共に学ぶ機会を設けます。部活動の地域展開に伴う人材を確保し、地域ぐるみで子どもの健全育成と豊かな人間性の涵養を進めます。

3 子どもの学びを支える教育環境

安心して学べる環境を確保するため、校舎や教育施設の機能向上と安全性を整備します。ICT機器やデジタル教材を活用し、教師の負担軽減と指導体制の強化を図ります。教育環境の充実により、子どもの学びと成長を継続的に支えます。

指標

支援体制機関の数
(数/時点)部活動の地域展開数
(数/時点)町教育職員の
時間外勤務時間(時間/時点)

3-(2) 生涯学習の推進

5年後に目指す姿

地域全体で子どもの成長を支えるとともに、地域を支える人財育成を推進します。学びの機会を充実させ、誰もが生涯にわたって学べる環境を整えます。

現状と課題

現 状

① 学校・家庭・地域の連携

少子高齢化や人口減少が進行する中、学校・家庭・地域が一体となって未来を担う人財の育成に向けて連携しています。

② 地域づくりを担う人財育成

地域の特性を生かした取組により、地域活動の担い手やコーディネーターの育成を進めています。

③ 学び直しと生涯学習推進

町民が年齢や経験を問わず自己実現を目指せるよう、多様な学びの場づくりに取り組んでいます。

④ 社会教育基盤の老朽化

社会教育施設の老朽化が進行しており、空調や照明などの設備に不具合が見られるケースもあります。このような状況が、利用者にとって快適とは言えない環境を生み出しており、地域住民が安心して集える場としての機能に支障をきたしています。

⑤ 図書館資料の整理と保存

生涯学習の拠点としての機能を十分に発揮させるため、図書館では資料の収集、整理、保存及び閉架書庫内の除籍作業を進めています。

課 題

① 子ども成長支援の強化

教育活動の充実と子どもの成長を地域で支えるための一体的な取組が求められています。

② 次世代を担う人財不足

地域活動を担う実践者やコーディネーター、若い世代の担い手の育成と確保が必要です。

③ 多様な学びの場の不足

町民一人ひとりの多様なニーズに応える学習機会のさらなる拡充が求められています。

④ 教育施設の維持改修

計画的な維持管理と設備の更新を図ることが喫緊の課題です。また、地域の多様なニーズに対応できるよう、施設機能の充実や利便性の向上が求められています。

⑤ 図書館機能の維持

老朽化した設備の計画的な更新が必要です。また、利用者ニーズに対応した資料の適切な更新、除籍とともに、資料の有効活用と快適な利用環境の確保が課題となっています。

取組

1 地域協働で人財育成推進

学校・家庭・地域が連携し、教育活動の中に地域資源を活用することで、子どもたちの成長と郷土愛の醸成を図ります。地域住民が教育活動に参画する仕組みを整備し、未来を担う人財の育成を地域ぐるみで推進します。

2 次世代を担う人財の発掘育成

地域の強みを生かし、地域を支える担い手やコーディネーターの発掘・育成に取り組めます。住民の主体的な活動を支援する制度や機会を整備し、持続可能な地域社会の構築に向けた人財の層を厚くします。

3 学び直しと多様な学習機会

多様な世代が自らの関心や生活課題に応じて学び直しができるよう、町内外の学習機関や企業と連携した講座を整備します。電子機器等を活用しながら、時間や場所にとらわれず参加できる環境を整え、働き世代や子育て世代も含めて誰もが継続的に学べる仕組みを推進します。

4 社会教育施設の機能改善

老朽化した社会教育施設については、段階的に設備改修を進め、誰もが快適に学べる環境を整備します。多様な活動を受け入れられる柔軟な施設運営を目指し、利用促進にも積極的に取り組みます。

5 図書館機能の充実と更新

図書館において電子書籍やICカウンターの導入、チャットボットなどのICTを活用し、業務の効率化と利便性の向上を図ります。資料の適正管理と大規模修繕を進め、町民が気軽に利用できる学習拠点にしていきます。

指標

地域活動参画者数 (人/年)

令和6年度

144

令和12年度

160

担い手の確保と育成 (人/年)

令和6年度

19

令和12年度

20

生涯学習の受講者数 (人/年)

令和6年度

366

令和12年度

380

社会教育施設数 (施設)

令和6年度

6

令和12年度

6

利用者1人当たりの図書館資料 貸出点数(点/年)

令和6年度

3.26

令和12年度

3.30

序
論

概
要

基本目標1

基本目標2

基本目標3

基本目標4

基本目標5

基本目標6

総
合
戦
略

基本目標1

基本目標2

基本目標3

基本目標4

資
料

後
期
基
本
計
画

総
合
戦
略

3-(3) スポーツの推進

5年後に目指す姿

地域の誰もが日常的にスポーツに親しめる活力ある社会を実現します。町民参加の機会を広げ、健康増進と世代間交流を推進します。学校や企業とも連携した持続可能なスポーツ環境を築きます。

現状と課題

現 状

① 参加機会が限定的

現在、地域住民がスポーツに参加できる機会は、学校やクラブに偏っています。社会人や高齢者等の参加が十分ではなく、町民全体にスポーツ習慣が浸透しているとは言い難い状況です。

② 設備の老朽化

体育施設やグラウンドの老朽化が進んでおり、安全面・利便性の両面で改善が必要です。これにより利用頻度や利用意欲が下がっている実態があります。

③ 指導人財不足

指導者やコーチの数が不足しており、特に地域での継続的なサポート体制が整っていません。結果として初心者や高齢者への適切な支援が難しい状況です。

課 題

① 多様な参加促進の必要性

より幅広い層にスポーツへの参加を促す工夫が必要です。社会人や高齢者等も気軽に参加できる仕組みづくりが課題です。

② 施設の整備・更新

老朽化した施設を安全かつ魅力ある状態に改善し、誰もが安心して利用できる環境にすることが求められています。

③ 指導人財の確保と育成

質の高いスポーツ指導者を増やし、地域で継続的に支援できる体制を作ることが重要です。研修や待遇改善なども課題です。

取組

1 「するスポーツ」の環境づくり

少子化やインターネット普及などにより、子どもたちがスポーツに取り組む時間や屋外で遊ぶ機会が減少していることから、幼少期からスポーツの魅力や楽しさを体験する機会の充実を図るため、スポーツイベントや講習会等の開催に努めます。

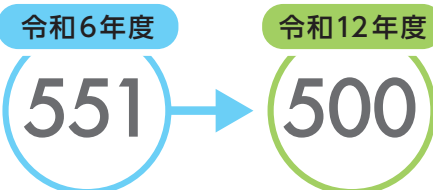
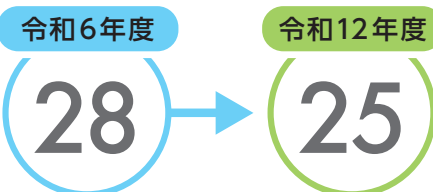
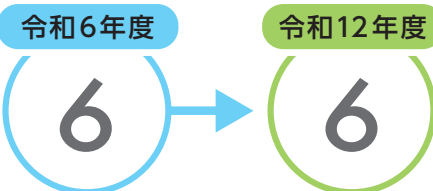
2 「支えるスポーツ」の環境づくり

部活動の地域展開など活動体制の変化に応じて、学校や地域、スポーツ団体との連携強化によるスポーツ環境の充実を図り、各種大会で活躍できる選手の育成に努めます。

3 「観るスポーツ」の環境づくり

指導者不足の課題を踏まえ、観戦を通じて競技の魅力や指導方法に触れる機会を広げ、若手や地域人財の育成につなげます。大会や試合の観戦環境を整備し、住民が応援や交流を楽しめる場を充実させることで、担い手づくりとスポーツ文化の定着を進めます。

指標

スポーツイベント・講習会等
参加者数(人/年)競技スポーツ強化支援
(団体/年)体育施設数
(施設)

3-(4) 文化・芸術活動の推進

5年後に目指す姿

町民が郷土の文化に親しみを持ち、世代を超えて文化・芸術活動に参加できる環境を整えます。子どもから大人まで多世代が関わり、郷土文化や歴史資源を活用した地域の魅力向上と人財育成が図られるよう努めます。

現状と課題

現 状

① 郷土文化・歴史資源の普及状況

伝統芸能や歴史資源があるものの、後継者不足や高齢化により普及活動が縮小傾向にあります。若年層の関心も低下しているのが現状です。

② 継承活動の担い手不足

伝統芸能や文化財の継承に必要な担い手が高齢化しており、次世代への引き継ぎが十分に進んでいない状況です。

③ 保存活動の地域偏在

文化財の保存活動は一部地域や団体に偏っており、町全体で一体感ある取組にはなっていないのが現状です。

課 題

① 若年層の参加促進

人口減少等により、伝統芸能や文化活動の継承者が不足しているため、持続可能な活動体制の構築が求められています。

② 継続的な連携体制の構築

学校や団体との連携が行事単位に留まり、年間を通じた計画的な活動につなげる体制が未構築です。

③ 資源のデジタル化の遅れ

文化財のデジタル保存や公開が進んでおらず、広く活用・発信できる環境整備が必要です。

取組

1 郷土文化教育の普及と人財育成

地域の歴史や文化を題材にしたワークショップや体験型学習を幼児期から実施し、郷土を愛する心を育むとともに、地域に根ざした人財の育成を推進します。学習機会の拡充により、若年層の郷土意識の醸成と地域活動への参加意欲を高めます。

2 学校・団体との連携による継承支援

学校教育や地域団体と連携し、地域史学習や伝統芸能の実演・体験機会を創出することで、地域文化の継承と次世代への関心喚起を図ります。継続的な活動を通して、住民が主体となった学びと継承の仕組みづくりを推進します。

3 文化財の保存とICT活用

文化財の調査・記録を進め、デジタルアーカイブ[※]化やVR等のICT技術を活用した展示や学習コンテンツの開発により、保存と活用の両立を目指します。町内外の人々に向けて広く情報発信し、文化財の魅力を伝える環境づくりを進めます。

指標

自主活動サークル等講師及び連携先の維持(件数/年)

令和6年度

36

令和12年度

36

ふるさと学習実施件数の維持(件/年)

令和6年度

3

令和12年度

3

文化財活用件数(学校利用含む)(件/年)

令和6年度

21

令和12年度

20

3-(5) 交流活動の推進

5年後に目指す姿

地域内外の関係団体と連携を深め、年間を通じて多様なイベントや交流の場を創出し、住民と来訪者の相互理解と地域活性化の実現を目指します。

現状と課題

現 状

① 久喜市との継続的交流

久喜市とは災害時の相互応援協定を締結しており、毎年度の交流事業を通じて深い信頼関係が築かれています。

② 関係団体との協力体制

漁協、農協、商工会、観光協会等との連携は存在していますが、イベントや交流機会の主体が限定され、広がりには課題があります。

課 題

① 久喜市との交流の拡充と活用

現在の交流は年次行事にとどまっており、防災や教育、観光など多分野に拡張し、協定の実効性を高める必要があります。

② 関係団体との共同体制強化

協働事業が単発にとどまりがちのため、関係団体との定期的な協議や人材の継続的な関与を促進する仕組みづくりが必要です。

取組

1 久喜市との多分野交流推進

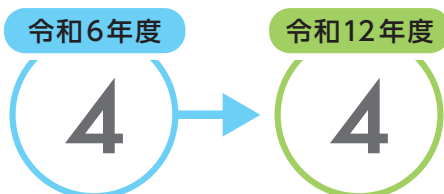
毎年度実施している久喜市との交流事業に加え、教育、文化、防災、観光など幅広い分野に連携を拡大します。また、相互応援協定に基づき、防災訓練や情報共有体制の強化を進め、災害時の連携を実効性のあるものとしていきます。

2 町内関係団体との連携強化

漁協、農協、商工会、観光協会等と連携し、町内外の交流イベントを共同開催します。町民主体の実行組織を育成し、継続的な実施体制の構築を図ることで、地域に根ざした活気ある交流活動を展開していきます。

指標

久喜市との地域間交流の維持(回/年)



町内関係団体との連携・イベント回数(回/年)

